

愛知県損害保険代理業協会は620余会員を擁する。昨年までは14支部であったが、活動をより活性化するため、本年より10支部に再編した。平成27年には創立70周年を迎えることから、実行委員会を立ち上げ、記念事業を行う予定である。

県代協の活動として、県代協セミナー開催や消費者団体との懇談会を実施している。また、各支部では毎月の支部例会の開催、支部便りの発行、AED講習受講をはじめとした支部セミナーの実施等を積極的に行っている。事務局は名古屋市の中心に近く、歌舞伎公儀で有名な御園座より南西に徒歩約5分の位置にあり役員会をはじめ各委員会も会議室として活用している。

平成24年の事業計画として、ハザードマップの普及活動と「新しく車社会へ出る若者たち」と銘打った高校生・専門学校生を対象とした交通安全教育を推進することを掲げている。どちらにも地域に根差したリスクマネージャーである我々だからこそ出来る、やらなければならぬ重要な使命であると考えている。

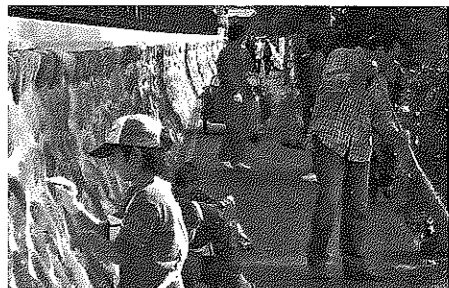
愛知県代協 豊川稲荷 清掃活動

愛知県代協のCSR活動としては、無保険バイビ保険会社より90名、合ク追放キャンペーン、盗難防止キャンペーン、地震保険普及キャンペーン、例年行事で慣れてはいるが、例年、熱田神宮清掃奉仕活動、豊川稲荷清掃奉仕活動を行っている。材等を積み込み、当日は、豊川稲荷清掃奉仕活動は11月12日(土)朝9時より三河地区会員を中心として、早朝より出発、役員および各古屋地区からの参加者は1〜2時間かけ到着、午前8時には準備をし、境内・外周等、各班に分かれ午前9時に清掃活動をスタートした。さすがに塵、タバコの吸殻等は少なからずあり、枯葉、落ち葉も綺麗に集め分

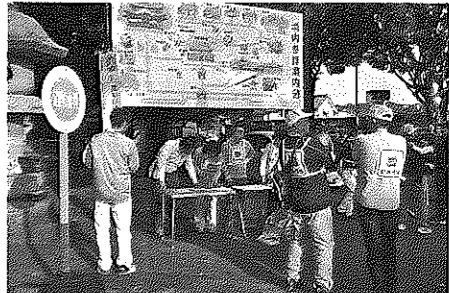
境内や外周を清掃

本堂でご祈祷も受ける

御祈祷を受けた後、無事解散となった。



子どもたちも清掃活動に参加



清掃前の入念な打ち合わせ

日本代協 地域貢献活動リポート

<5>

青森県代協は6つの支部から構成されている。今回ご紹介する十和田支部は、八甲田山を西に望む十和田市を中心とした青森県南部中央で活動している20店舗の会員数の支部である。

青森県代協で参加していた、海岸の清掃活動である『むつ湾東岸美浜推進DAY』が平成18年に終了し、引き続きどのような環境保全活動を行うべきか悩んでいたとき、十和田市広報に「奥入瀬川クリーン作戦」の参加者募集の記事を発見、主催者である奥入瀬川クリーン対策協議会事務局を訪問し、要項を頂き支部理事会で協議し平成19年度より参加を決定

青森県代協 奥入瀬川クリーン作戦

奥入瀬川は十和田湖を水源とし、景観で有名な奥入瀬渓流を経て奥入瀬川となり太平洋に注がれている。途中に日本の三大開拓地の一つである三本木原台地に水を配水するために造った稲生川の取水口があり、十和田市・六戸町・おいらせ町・三沢市・東北町などの水源となっていた。また本流では『さけ』の養殖事業が県下1・2番目に古くから行われており、十和田地方の『母なる川』として県民に親しまれている。

近年、日本経済の成長と生活スタイルの変化により自然の恵みに対する認識が薄れ、時が経つにつれ地元の川にも影響が出始めた。河川敷には多

15キロの河川敷を清掃

透明度増し魚の泳ぐ姿も



奥入瀬川の川べりでの清掃



盛夏の中、清掃活動に参加

世に残そうと内水面漁協・土地改良区・流域町内会や協賛者の協力、そして行政機関の応援を得て奥入瀬川クリーン対策協議会が立ち上がり、第一回クリーン作戦が行われ、たのは昭和59年のことである。

活動の内容は十和田市・六戸町・おいらせ町の各教育委員会の後援を得て十和田市の中振橋から六戸町の共栄橋までのおよそ15kmの河川敷を清掃するものである。協賛企業との協力で集合場所から活動拠点までの送迎があり、清掃終了後には二シマスのつかみどりや焼肉等のイベントが催される。参加者は各町内会・老人クラブ・子供会や協賛企業の職員等で毎年800名前後の参加人数となる大規模なボランティア活動である。

毎年8月の第一日曜日に行われ、昨年は十和田支部より会員6名が参加した。また事業費に当たっての少額だが支部活動費を拠出し、現在に至るまで市民とともに一丸となつて清掃活動に参加している。盛夏の強い日差しの中での清掃活動は楽なものではないが、集められたゴミを見ると我々会員を含め多くの市民のボランティアの力は大きなものだとつくづく思う。

(執筆 中野豊副会長・青森支部長)

せいか、今では川も透明度を増し魚の泳ぐ姿が見られるようになってきた。また多くの野鳥のさえずりも耳にすることが出来る。昔の豊かな自然を取り戻しつつあるのである。私たちの活動が着実に成果を残している